

一 表

鉤虫保有者の血液像及び尿検査成績

調 査 個	調 査 所	氏 名	年 令	性 別	白 球 数	赤 球 数	Hb 色 素 指 数	白 血 球 分 類						尿 検 査			備 考
								B	E	St	S	L	M	蛋 白	糖	ウ ロ ビ リ ン	
東 風 平 小 学 校	金城 節子	8	♀	5,500	341,000	50	0.7	14	7	35	39	5	(-)	(-)	(+)		
	新垣 節子	9	♀	5,000	330,000	60	0.9	17	5	53	20	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)	
	"	古波倉でい子	7	♀	9,000	404,000	62	0.7	14	6	43	33	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
	"	嘉数 秀雄	8	♂	5,000	366,000	52	0.7	20	4	49	25	2	(-)	(-)	(+)	
	"	知念 義貞	8	♂	5,000	472,000	56	0.5	5	4	34	54	3	(-)	(-)	(+)	
	"	知念 清光	8	♂	6,500	455,000	90	0.9	16	7	42	33	2	(-)	(-)	(+)	
	"	金城 静技	11	♀	4,000	205,000	35	0.8	5	4	23	65	3	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
	"	宮城 節子	11	♀	5,500	307,000	50	0.8	12	10	55	22	1	(-)	(-)	(+)	
	"	新垣 政博	11	♂	7,500	226,000	56	1.2	9	7	61	20	3	(-)	(-)	(+)	
	"	謝花サエ子	12	♀	10,000	279,000	55	0.9 ^J	4	8	51	31	5	(-)	(-)	(+)	
	"	神谷 清松	12	♂	9,000	422,000	58	0.6	8	5	40	42	5	(-)	(-)	(+)	
	"	金城 秀雄	12	♂	8,000	388,000	70	0.9	8	8	46	36	2	(-)	(-)	(+)	
	"	仲座 清志	12	♂	3,000	175,000	30	0.8	12	10	46	29	3	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
	"	金城賀代子	9	♀	12,000	420,000	60	0.7	6	7	46	39	2	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
	"	神谷 勝子	10	♀	13,000	372,000	60	0.8	6	7	64	20	3	(-)	(-)	(+)	
	"	嘉数ヨシエ	10	♀	5,000	354,000	70	0.9	11	4	38	44	3	(-)	(-)	(+)	
	"	野原エミ子	11	♀	7,000	391,000	62	0.7 ^B	5	8	34	50	2	(-)	(-)	(+)	
	"	当間 盛孝	11	♂	9,000	356,000	60	0.8	15	8	49	23	5	(-)	(-)	(+)	
	与 儀 小 学 校	新垣サダ子	11	♀	7,500	376,000	56	0.7	14	7	49	26	4	(-)	(-)	(+)	
		屋富祖春子	11	♀	7,000	266,000	52	0.9	24	6	59	10	1	(-)	(-)	(+)	
野原 繁		8	♂	5,500	392,000	76	0.9	5	6	52	34	3	(-)	(-)	(+)		
神田なみ子		7	♀	9,000	263,000	48	1.1	27	3	20	46	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)	
"		幸地 住子	8	♀	7,000	370,000	72	0.9 ^{PI}	7	6	46	36	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
"		新里立津子	10	♀	3,500	281,000	50	0.8	17	2	20	59	2	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
"		城間 春江	10	♀	4,000	361,000	50	0.6	8	4	37	49	2	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
"		宇地原英子	10	♀	4,500	401,000	54	0.6	5	4	26	61	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
"		山里 法子	11	♀	7,000	380,000	70	0.9	7	5	46	38	4	(-)	(-)	(+)	
"		神谷たかお	8	♂					PI ₁	10	5	41	39	4	(-)	(-)	(+)

第一部 殺蛆剤に就いて

琉球衛生研究所 平 識 善 保

殺蛆剤は昔より数多く市販されて居るが確実な殺蛆力を有するものは少い。其中、DDT や石油類等の混合剤がかなり良好な成績を得て居るが完全に死滅させることができないのは欠点である。処で今回の研究の結果下記の混合剤が最も効果的で又安価であり著明な殺蛆力が

得られたのでその混合方法及び使用方法並に殺蛆成績を記して参考に供す。

混合する試薬の割合：

ケロシン油100に対し
コールタール 2-3 %

粗製食塩 2%

粉石ケン 1%

混合方法：ケロシン油を瓶に適当量を入れコールタールを徐々に振とうしつつ混和し必要量のケロシンコールタール液を造り食塩2%粉石ケン1%を混入して使用する

使用方法：混合液を便所に散在的に注ぎ込む、1石程度の内容便所に約160瓦程度使用する。

成績：ケロシンコールタール混合液を注入後1時間前後に蛆は完全死滅する。

死滅の原因：死滅の原因はケロシンコールタール混合液が蛆虫体に無数にある蛆皮膚面の小毛に附着吸収され活動不能となり又蛆虫体内に混合液が浸透し急速に死滅することによると推察される。成虫の蛹はケロシンコールタール混合液を便所に注ぎ込むと数分にして飛び去り数日間は全く姿を見せない。1ヶ月に2、3回混合液を注入すれば便所内に夏期に於いても全々蛹の発生は見受けられない。

むすび：人類の大敵蛆は伝染病の根源となるので蠅類の絶滅こそ保健衛生上最大の要望である。強力なる殺蛆力を有するケロシンコールタール液を広く一般住民が使用する事を望む。

第二部殺蛆剤について：セメント末を原料とした殺蛆剤の殺蛆力と其の成績について：セメント末に生石灰と粉石ケンを混合し水溶液にして殺蛆剤として使用すると十分な殺蛆効果のある事が実証されたので各位の参考に供する。

混合する試薬の割合：

水100に対して

セメント末 3-5 %

生石灰末 2-3 %

粉石ケン 1 %

上記三種粉末の混合物でも良好なる成績を得ることが出来るが水溶液にして使用することにより良い成績が得られる。

1、幼虫期に於いては投入後約30分~40分で死滅する。

1、成虫期に於いては40分~60分で完全死滅する。以上の通りにして殺蛆力が十分である事が認められるので各位が参考に使用の上一般住民に広く普及されたい。第一部、第二部とも金額が極く安価であるので一般民家の使用には最適だと信ずる。寄生虫卵に対する効力は後日研究の上詳細に報告する。

沖縄に於ける肺吸虫症の疫学的調査成績（中間報告）

琉球衛生研究所

国 吉 真 英 城 間 盛 吉
仲 地 紀 良 上 原 直 三
平 識 善 保

1. 緒 言

我国に於いて検出されている肺吸虫はウエステルマン肺吸虫 (Paragonimus westermani Kerbert, 1878) ケリコット肺吸虫 (Paragonimus kellicotti Ward, 1908)、大平肺吸虫 (Paragonimus ohiraii Miyazaki, 1939)、及び小型大平肺吸虫 (Paragonimus iloktsuenensis Chen, 1940) の4種類であるが、沖縄に於いては今日までウエステルマン肺吸虫と大平肺吸虫の2種類だけしか検出されていない。

沖縄に於ける肺吸虫症については戦前(1921~1937年) 8名の患者発生が沖縄県衛生課資料に記載され、戦後に於ては当山堅一 (1955年) の臨床1例報告があるが、肺吸虫症の疫学面に関しての系統的調査は今日まで実施されてなかつた。1958年1月寄生虫指導のため来島された東京大学伝染病研究所の佐々学教授の指導の下に私共は沖縄に於ける肺吸虫症の疫学調査を実施し、その結果「沖縄本島に25名の患者が医師の診療を受けている事を

知り、患者の中明らかに沖縄で感染したと思われる者が4名で、感染源が沖縄内にも存在する事が明らかになり、尚沖縄本島北部本部町伊豆味から採集したモクズガニ6匹中1匹よりメタセルカリアを検出し、沖縄に於いてもモクズガニが肺吸虫症の感染経路に重要な要素になり得る事が解つた」等については琉球衛生検査学会報第1号 (1959年9月) に発表した。今回はその後における疫学調査成績をまとめたものである。

II、沖縄産モクズガニに於ける肺吸虫メタセルカリア寄生状況について

1. 調査方法

1958年1月から1960年1月に亘り、沖縄本島及び久米島より採集したモクズガニよりメタセルカリアの検出を実施した。最初に雌雄別に分け、甲殻の大きさを計測した後左右の鰓を全部分離し、2枚の板ガラスに圧平し解剖顕微鏡下にメタセルカリアの有無を検した。

2. 地域別にみた寄生状況